

「虚しい信仰生活からの脱却」

主任牧師：重田 稔仁

<メッセージ>

マルコの福音書3：1～6

伝道者は言う、空の空、空の空、いっさいは空である。 伝道者の書1:2

“虚しい”という言葉から連想すること

愛の無い結婚生活 やりがいのない仕事

3時間かけた割には不味い料理

中身、実体のないホニャララ～

虚しい信仰 復活のない信仰

虚しい信仰と聞いて連想すること

喜びの無い信仰

私たちの信仰の中身、実体は何か？

神の独り子イエス・キリスト

キリストが私たちの信仰の実体であるなら、私たちの信仰は虚しくなるはずがありません。何故なら、私たちが信じる神の独り子イエス・キリストは如何なる時にも私たちの存在に価値、意味、目的、与えてくださる“私は、ある”という確かな方だから。

ではキリストを信じている私たちの信仰生活を虚しくしているのは何か？

教会の集まりや礼拝が退屈だから。

心配事、悩み、葛藤が多すぎるから。

この世が楽しすぎるから。

信仰生活が上辺だけで形式的だから。

信仰生活が義務感でなされているから。

(命令されてやっているから。)

私たちの信仰生活が虚しいのは

私たちが“イエス様の恵に生きる”ことと、“イエス様に結ばれて生きる”ことを具体的にわかっていないからではないでしょうか。

イエス様の恵に生きる、イエス様に結ばれてに生きるとはどういうことか？

今朝はこのことに焦点を当てて一緒に考えてみたいと思います。

朗読 マルコによる福音書 3:1-6

「イエスはまた会堂にお入りになった。そこに片手の萎えた人がいた。人々はイエスを訴えようと思って、安息日にこの人の病気をいやされるかどうか、注目していた。イエスは手の萎えた人に、「真ん中に立ちなさい」と言われた。そして人々にこう言われた。「安息日に律法で許されているのは、善を行うことか、悪を行うことか。命を救うことか、殺すことか。」彼らは黙っていた。そこで、イエスは怒って人々を見回し、彼らのかたくなな心を悲しみながら、その人に、「手を伸ばしなさい」と言われた。伸ばすと、手は元どおりになった。ファリサイ派の人々は出て行き、早速、ヘロデ派の人々と一緒に、どのようにしてイエスを殺そうかと相談し始めた。」

マルコによる福音書 3:1-6

安息日にイエス様が片手の不自由な人を癒やしたことで、どうよ？

が今朝のメッセージのテーマですが、

聖書に馴染みの無い方に少し説明させていただきますと、

安息日とは、旧約聖書の『創世記』で天地創造の7日目に主なる神が休息を取ったこと由来する日ですが。

それは金曜日の日没から土曜日の日没までの間を指し、その日は『出エジプト記』20章に記されているように神が天地創造において7日目に休まれ、この日を祝福し聖であると宣言したのでユダヤ人は一切の労働を禁じられていました。

ファリサイ派とはどのような人々か。

ファリサイ派は、モーセの律法を厳格に守るユダヤ人を指す名称です。

ヘロデ党とはどのような人々か。

ヘロデ党は、アブラハムの子イシマエルの子孫エドム人ヘロデ王（ヘロデ王朝）を支持したユダヤ人を指す名称です。

ファリサイ派とヘロデ党は当時、政治的に反目し合っていたのですが、イエス様が片手の萎えた人を安息日に癒やしたことで、ファリサイ派のユダヤ人たちはヘロデ党のユダヤ人たちとイエス様を殺すために結託したとマルコ3：6は伝えています。

ところで何故、ファリサイ派の人々はイエス様が安息日に片手の萎えた男を癒したことでイエス様を殺そうと決意したのか。

それはイエス様がファリサイ派のユダヤ人たちが命がけで大切に守っていた律法を意図的に蔑ろにし、神を冒瀆したと理解したからです。

問い

イエス様はご自分の行為がファリサイ派の人々を刺激し、彼等を挑発することになると知っていたのだろうか？

答え

知っておられた。

問い

なぜイエス様はファリサイ派の人々との間に波紋を起こすようなことを敢えてなさったのか？

答え

それは、イエス様が片手の萎えた男を心から憐れんだから。

問い

イエス様はファリサイ派のユダヤ人たちの心情を顧みなかったのか？

答え

イエス様はファリサイ派のユダヤ人をも深く憐れんでおられた。

“彼らの頑なさを見て悲しんだ”

問い

イエス様にとって安息日が開けるのを待って男を癒す選択肢はなかったのか？

答え

ありませんでした。

問い

なぜ、イエス様は安息日に敢えて癒しのわざを行ったのか。

答え

それは、片手の萎えた男のみならず、そこに居合わせた人々に神の真実を明らかにしたかったからです。すなわち弟子たちの信仰の本質を問い直すために安息日の癒しは必然だった。

結論

では、イエス様が明らかにしたかった神の真実とは何か？

そのことをイエス様のことばを借りて説明すると、

「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない。だから、人の

子は安息日の主でもある。
マルコの福音書 2:27~28

「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない、
とは人は安息日にふさわしいことを強いられていないという意味です。

これを私たちのクリスチャンライフについて一歩踏み込んで“私たちのこと”として解釈すると。

神様は、私たちにクリスチャンらしく生きることを求めているから、クリスチャンらしく生きるのはやめましょう。上辺だけの、義務感と責任感でがんじがらめになっている信仰生活とはおさらばしましょうという意味になります。

神様は私たちに何を求めているのか？

それは私たちがイエス・キリストの恵（新しい葡萄酒）にあって、イエス様に結ばれて神の前に生きることです。

イエス・キリストの恵

人は律法の戒めを守ることで神の前に義とされるのではなく、律法の戒めを全て満たしたイエス・キリストを信じる信仰によって義とされるという神の祝福。

イエス・キリストに結ばれるとは、人を義としてくださるイエス様が私たちのうちで生きてくださり、私たちがイエス様のうちで生きることです。

「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。」

ヨハネによる福音書 6:56

イエス・キリストの恵に生きるとき、私たちは神の前に安心して生きられます
なぜならイエス様がどんな時でも、どんな私たちをも神の前にとりなしてくださるから。

イエス・キリストに結ばれて生きるとき、私たちは神の前に安心して生きられます。なぜなら私たちのうちに住むイエス様が私たちの全てを知っておられ、私たちはそのイエス様のうちにあって罪の滅びから救われているからです。

つまり、私たちはどんな時もイエス様と共に神の前に生きるのです。私たちのうちに平安と感謝があり、それが私たちの喜びとなりその喜びが私たちの信仰生活を生き生きとさせてくれるのです。

だからキリスト信仰は、虚しくなりようがないのです。

今、申し上げた神の真実に私たちの目は開かれているでしょうか。

今から40年ほど前のことです

JTJ 神学校の元学長岸先生義弘先生が、キリスト教会の礼拝は日曜日に拘らないで、土曜日でも、月曜日でも、木曜日でも皆さんが集まる日に行ったら良いです！と本か、どこかの集会で仰ったことがきっかけで日本のキリスト教会で岸先生に対する非難轟々のバッシングが起きました、それがやがて岸先生の本の不買運動に発展し、大量の本がキリスト教書店から撤去され岸先生に返品され先生は途方に暮れたと伺ったことがあります。

この話しは、たった40年ほど前のことです。40年前、日本のクリスチャンたちは、安息日論争をやっていたんです。

では、今はそんなことはないでしょうか。安息日をめぐる論争はほとんどないと思います。なぜなら多くの教会で日曜以外の曜日に礼拝が営まれていますから。しかし、それは日本の教会に連なるクリスチャンたちがイエス・キリストの恵、キリストに結ばれて生かされているということの裏付けにはなりません。

何故なら、多くの人教会が活力を失って行く末を案じているからです。

私たちは、クリスチャンらしく生きようと無意識に振る舞っていないでしょうか。身振り、手振り、口ぶりの上部だけのクリスチャンライフを送っていないでしょうか。

イエス様の恵、イエス様に結ばれて生きるとき、年寄りも若者も自由に喜びをもって信仰生活を送ることができます！

皆さん、人は安息日すなわち神の恵みのために造られたのではなく、人のために安息日、神の恵を神さまは備えてくださっています！

聖霊がいつでもどこでも皆さんの心に神の真実を解き明かし、皆さんに平安をもたらしてくださることを祈っています！

「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない。だから、人の子は安息日の主でもある。 マルコ2：27～28